

物質と非物質の隙間

U F O フリーエネルギー研究家 田村良一

これは、3年前さいたま市内の荒川を渡る秋ヶ瀬橋から取った写真である。夕方車で帰宅途中、いくつかの光体が空に浮かんでいるのが見え、持っていた携帯でとったものである。一昨年、雑誌ムーに投稿して23年の4月号に掲載された。その記事にも書いたが、20年前、春日部から帰る途中、10メートル程前に走っている車のすぐ後ろを、円盤状の銀色の物体が、ふあふあ揺れながらゆっくりと水平に横切って行くのを目撃した。初めは風船かと思ったが、車は60キロくらいのスピードは出ていたので、車間距離をピッタリ保って風船が水平に移動することはあり得ないので、風船でないことは明らかである。途中2回程光ったので、人工的な物体であると推測される。



超能力関連では、10年前本会で実演された、タジマジックの主催者と後の懇親会で、目の前でスプーン曲げをやってもらえないか頼んだところ、堅いスプーンを取り出し隣に座っていた阿久津さんにスプーンの先の部分をねじるように指示したところ、ほとんど力を使わずに（本人の言葉）一回転してしまった。

また、数年前の清田氏によるスプーン曲げ、我々が触って確認した堅いスプーンを、片手で持って数分間念を入れただけで、見事に二つに折れて先の部分が落下したのを目撃した。

これらの現象は明らかに超能力の存在を示す証明となるように思われる。

今から、45年前、昭和55年日本テレビで放送された、矢追純一ディレクター監修による「木曜スペシャル」において、スイス在住のエドアルド・マイヤー氏が遭遇したと

いうUFO事件が現地スイスに取材、放映された。プレアデス星から来たという宇宙船の映像が、数十分にわたり流されたが、その中でも、瞬間移動という超常現象が、はっきりと写されている。



UFO異次元移動の瞬間



一旦消滅



再出現

これらの映像は、8ミリフィルムカメラで撮られたもので、ビデオ映像のような修正はできない。フィルムを一コマごとに写しても、フィルムに加工、修正した跡は無かった。



マイヤー氏の説明を聞く矢追氏



1975年撮影

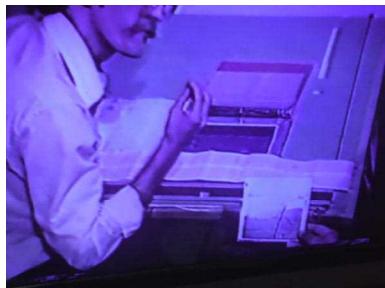
これらの数百枚に及ぶ、フィルムや写真は、ジム・ディレトッソ博士をリーダーとする分析チームによって、コンピューター等を使って、徹底的に分析された。その結果、これらのフィルムや写真に二重写し、加工、捏造された跡は全く見つからなかったということである。



分析チームリーダー



コンピュータ分析のUFO写真



光透過率の分析



コンピュータインハンスマント
(輪郭強調)

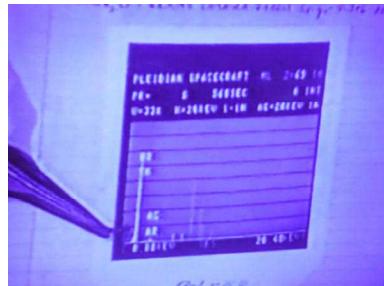
更に、宇宙人からもらったという金属片を、世界的に著名な金属学者マーセル・ボーゲル博士に分析を依頼した。



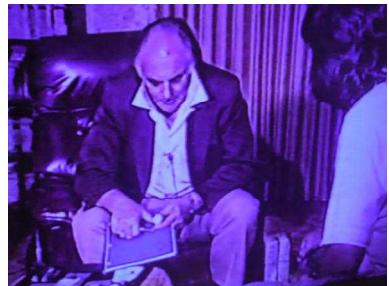
マーセル・ボーゲル博士



宇宙人からもらった金属片



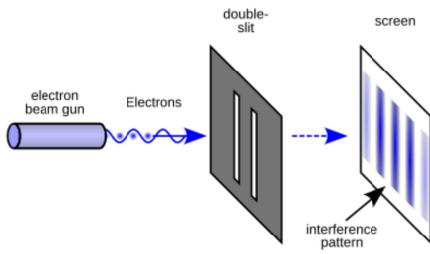
希少金属ツミューム検出



分析結果を伝えるマーセル氏

詳細な分析の結果、この金属は現在の地球上の技術では到底製造できない物であり、熱や電気処理をした跡がなく、冷間融合という方法で作られた極めて特殊な合金であるとのことである。

これらの事実により、この事件は非常に信憑性の高い事件であると考えられるが、先に提示した、超能力との関連で言うと、物質の非物質化、瞬間移動、消滅等関連性の高い現象であると思われる。我々の持つ現代科学において、物質は粒子と波動の二重性をもつことが、電子線を二重スリットを通して、スクリーンに投射すると、干渉縞が出来ることから確認されているが、この、粒子であると同時に波動であるという話は、半分、分かったような分からない話ではないだろうか。



電子線の二重スリット実験

これらの現象について、プレアデス人達の持つ科学認識はどうかというと、原子というものは、物質生成の 7 元性における最高段階であり、その下の 6 段階のうち、地球の科学者が認識しているのは、6 段階の素粒子水準と 5 段階水準のクォークまでで、4 段階以下の純物質とは言えない物質つまり非物質については全く未知であるとのこと。物質は 7 つの段階を経て純エネルギー（靈的エネルギー）から純物質に変化するということである。

つまり、物質は絶えず変化して、純エネルギー即ち波動状態になったり、物質になったりしているのではないかと考えられる。そうすると、スリットを通過するとき、粒子のまま通過する場合と波動状態で通過する場合があると、干渉じまの出来る理由が分かる気がする。

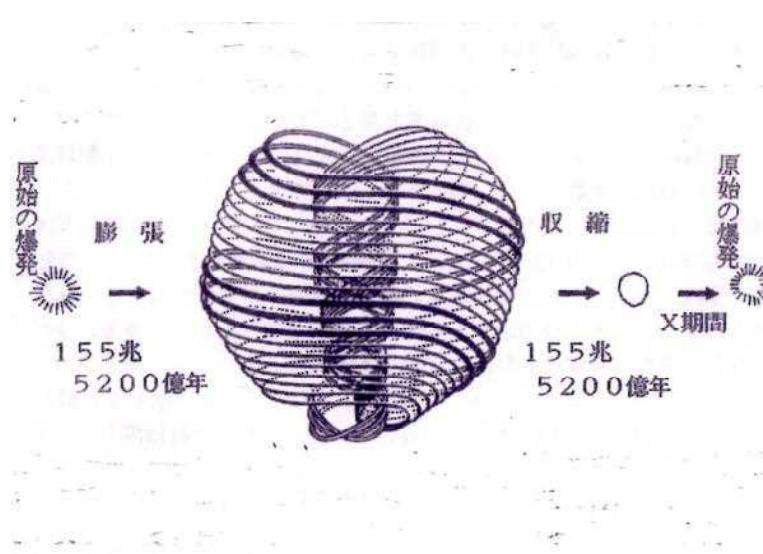


宇宙船接近映像



NASAで本物と認定された写真

彼らは、地球から約 520 光年のプレアデス系の惑星から、7 時間で飛来すると言う。宇宙年齢や大きさについて、地球の科学者は百数十億年あるいは、数百億年といっているが、それらは、光の速さが常に太陽系と同じ、約 30 万 km 每秒であると仮定して計算したものである。しかし、彼らの話によると、光の速さは、膨張宇宙の先端では、その 147 倍の速度で疾走しているので、実際の宇宙の年齢は 46 兆 5000 億年であるという。また、宇宙の形は二重螺旋形で、今後も膨張し続け、155 兆 5200 億年後に同じ時間をかけて収縮するという。



宇宙の構造及び膨張収縮



関係者に話を聞く矢追氏



矢追氏と談話するマイヤー氏

更に、地球の誕生は、6460 億年前であり、今までに、5 回、高度な文明が発達したが、すべて、大戦争により破壊してしまったという。最後に起こった文明は、3 万 3 千年前に始まったムー・アトランティス文明で、ムーは今のゴビ砂漠、アトランティスは大西洋のアゾレス諸島のあたりにあったという。数千年間は、平和に暮らしていたが、1 万 1 千年前、陰謀により戦争が起き、ムーが先に壊滅、その直後、アトランティスも小惑星兵器により大西洋に沈んだ。今のアゾレス諸島がその名残だという。

その約千年後、ノアの洪水が巨大彗星によって起り、世界は破壊され、再び原始時代から復興することとなったとのことである。

また、ギザのピラミッドはクフ王の墓と言われているが、これは、吉村作治教授も言わっているように、ミイラは一体も出てこないことから、墓ではなく、今から 7 万 3 千 3 百年前に、宇宙人によって作られたものであるとのことである。

彼らが、地球を訪れている理由は、地球文明が物質文明に偏り、精神的なものがなおざりにされていることを反省し、再び、大災害が起こらないよう自ら改めてもらるように促すために来訪しているとのことである。